

## 令和4年度東京データプラットフォーム協議会第5回推進会議

### 議事録

時間：2022年6月24日（金）9:00～11:00

場所：Zoom（オンライン会議）

---

#### 1. 開会のあいさつ

【事務局】皆様、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、これから第5回推進会議を開催させていただければと思います。

本日司会を務めさせていただきます、本年度本事業を受託しておりますアビームコンサルティングの橘知志と申します。よろしくお願いいたします。

いくつか注意点がございます。1点目ですが、ハウリング防止のためご発言される時以外はマイクのミュートをお願いします。

2点目ですが、発言時には、所属先とお名前の方、おっしゃっていただき、他の方が話終えてから発言いただきますようお願いいたします。また、発言者の顔が映るよう、可能な限りビデオをオンにさせていただければと思います。

3点目ですが、万が一画面共有が途切れてしまった場合ですとか、画面がフリーズしてしまった場合に備えて、ホームページ上で公開している資料の方を閲覧できるようになってございますので、お手元にご用意いただけますと幸いです。音声等のトラブルが発生している場合は、Zoom上でチャットまたは事前にご連絡している弊社担当窓口にご連絡をお願いいたします。

またインタラクティブな会議運営のため、感想やご意見を、随時チャットにご投稿いただけますと幸いです。盛り上げて行きましょうということで、よろしくお願いいたします。

加えてチャットに投稿いたしましたURLより、本日のアンケートフォームにも遷移ができますので、会議中または会議終了後にご回答いただけますと幸いです。

先ほども申しました、参加者の皆様とのインタラクティブな会議運営を目指すべく、ご意見集約ツールとしてMentimeterというものを利用いたしております。こちら完全匿名で投稿が可能となっております、アンケートツールとなっております。

この後表示いたしますQRコードを用いることで、ログインの必要なくご利用いただけます。プログラムの途中でも利用いたしますので、お手持ちのスマートフォン、PC等でアクセスいただけますと幸いです。

それでは早速ちょっと使ってみようかなと思うんですけども、Mentimeterを、皆様に

ご使用いただきます。画面に表示されている QR コードよりアクセスをお願いいたします。もしうまく読み取れない場合は、スライド上のリンクとコードを、URLの方が左下のほう、コードが右下に書かれていますけれども、そちらのリンクの方、直接ブラウザに入れていただいて投稿することも可能ですので、よろしくをお願いいたします。

アクセスした方は、回答できましたかという画面が表示されると思いますので、回答していただければと思います。また、これはリアルタイムで集計されますので、そちらの画面に切り替えてみようと思います。

投稿できましたか、皆さん。あ、「いいえ」が。事務局の方に何か質問いただければフォローができるかなと思いますので、よろしくをお願いいたします。

そうしましたら、さっそく最初の次第にまいります。まずは開会のご挨拶として、東京都宮坂副知事よりご挨拶をいただければと思います。よろしくをお願いいたします。

**【宮坂副知事】** 本日は推進会議に出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今年度の初回となりますが、昨年度もこの会を計 4 回活発にやってきており、その取組をより広げていく意味合いで、第 5 回の開催となります。委員の皆様におかれましては、昨年度から引き続きご多忙の中就任いただきまして、ありがとうございます。改めて言うまでもありませんが、データは流通してなんぼと、もうこの一点に尽きるというふうに思っております。そのデータの流通というのが、東京都と民間の間、そして都民と東京都の間で活発なのだろうかと言うと、まだまだ甚だ心もとないところがあると思います。

これをもっと、活発にしないといけないと思っています。例えば紙でデータを渡しちゃうとか、バラバラのデータフォーマットで渡しちゃうとか、同じ渡すにしても、流通速度が全然上がらないというのが、私の考えている課題であります。

この東京データプラットフォームでは、色々やりたいことがあるわけですけど、官と民の間、そして我々都からですね、都民の方に出すデータも含めて、データ流通の摩擦を 0 にすることを目指すというのが、大きな目的の一つだと自分では考えています。そのための共通の基盤をみんなで作ろうじゃないかと。共通の規格といってもいいかもしれませんが、しっかり作っていきたいと思っています。

また取組を進める上では、官と民という話があるんですけど、まずやっぱり我々都側がですね、行政としてデータを出す時に、それは本当に流通しやすいデータだろうかということ、改めて再点検して取り組む一年に、ぜひしたいなというふうに思っています。

例えば職員が取組内容を公開する時に、都庁のホームページで PDF で上がったとかしていますけど、それは本当に流通速度、摩擦が 0 なフォーマットになっているのか、こういったもう本当に地味なんですけど、やっぱり基礎から、しっかりやり直していきなと思っています。

もう一つ、こういったプラットフォームを作るときに、プラットフォームって、やっぱり使う人がいてこそそのものかと思えます。非常にこう利他的な場になるわけですけど、じゃあ

使う人は一体誰なのか、顧客は誰でその利用者は何に困っているのか、ということ、解像度高く理解しながら、進めて行きたいというふうに思っています。そうしないと、作ったのはいいけど、誰も使う人がいないという非常に残念なことになってしまいますので、顧客は誰でその人は何に困ってるのかという、この TDPF は誰のどんな課題に答えていくのかといったことを、まさに MVP、PMF みたいなものを、しっかりやりながら進めていきたいなと思っています。

最後にデータの整備についてもちょっと触れておきたいと思います。昨日、都知事杯ハッカソンのプレイベントというのを開催しました。ハッカソンには昨年度も本当にたくさんの方にご参加いただいて、都や区市町村の出しているオープンデータを使って非常にたくさんの方の素晴らしいサービスをつくっていただきました。

その中で非常に痛感したのが、非常にいいデータはあるんですけど、カバレッジが 62 区市町村とか、東京都全域ないデータが結構多いんですよ。だから、たくさん種類があることも大事なんですけど、種類が少ないけど価値あるデータが、東京都全域、南から北まで東から西まで全部フルカバーしてるという、「データのカバレッジ」もやっぱり価値を上げるためには大事だなと思いました。こういったデータの品質についての整備もやっていきたいなと思っています。

この場での議論が本当に大事になるというふうに思っています。役所のこういった会議って予定調和になりやすいんですけど、自由闊達な議論をみなさんにさせていただいて、視聴者の方からも、どんどん「そんなんじゃ甘いんじゃないのか」というのも含めて、いただければなと思っています。

本日はよろしくお願ひします。

**【事務局】**宮坂副知事、貴重な最初のご意見もいろいろ頂きましてありがとうございます。

## 2. 委員自己紹介・事務局紹介

【事務局】それでは次に、本年度令和4年度協議会委員の皆様のご紹介に移らせていただきます。

今年度委員に就任されました5名の皆様から、おひとり1分程度で、一言ずついただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

この表記の順番で行きたいと思いますので、まずは東京大学大学院情報学環教授越塚登委員、よろしくお願いいたします。

【越塚委員】ご案内ありがとうございます。東大の越塚でございます。今日よろしくお願いいたします。

このTDPFの取組や議論、だいたいこう進んできて、だんだん実現に向けてということに、だんだん実現が近づいてくると思いますので、そういう意味で少し議論の内容も徐々に変わってくるかと思っておりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】よろしくお願いいたします。続きまして株式会社iSGSインベストメントワークス取締役代表パートナーの佐藤真希子委員、よろしくお願いいたします。

【佐藤委員】はい。おはようございます。よろしくお願いいたします。iSGSインベストメントワークスという、ベンチャーキャピタルのパートナーをしておりますので、データの活用のところは、スタートアップを含めて巻き込みが必要だと感じています。その辺の一助を担えたらと思います。よろしくお願いいたします。

【事務局】ありがとうございます。よろしくお願いいたします。続きまして、武蔵大学社会学部メディア社会学科教授庄司昌彦委員、よろしくお願いいたします。

【庄司委員】はい。おはようございます。どうぞ宜しくお願いいたします。私は最近、自治体DXというキーワードでいろんなことをお手伝いしていて、昨日も東京都と練馬区でワークショップをやっていたのですが、やっぱり少しでも成果を出していく行動を変えていく、そういうちょっとしたでも「変わったな」というのを実感して、それを積み重ねていくことが大事だと思っています。ぜひこちらでの議論も、実感できる成果に向けてつなげていただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】どうもありがとうございます。続きまして、一般社団法人スマートシティインスティテュート専務理事南雲岳彦委員、よろしくお願いいたします。

【南雲委員】はい、ありがとうございます。南雲でございます。皆さんどうぞ宜しくお願いいたします。

この、プロジェクトといいますか、政策もだいたい具体化に向かってエンジンがかかってきているという印象を受けています。

データをどんどん使っていくという時代に向かっていきますが、データの先には人がいるという、そういう温かみを忘れない政策になっていくといいなと思っているわけです。

あと一点は、東京でやるということは、グローバルシティの一環。そういう一翼を担っているという気概もあっていいと思っています。もちろんロンドン、ニューヨーク、パリのような、いわゆるグローバルトップティアでもあるんですけども、バルセロナ、コペンハーゲン、メルボルンなどの先端的な都市と肩を並べていくような、アスピレーションな政策にしていなければなと思っています。私も頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。

【事務局】ありがとうございます。続きまして、三浦法律事務所弁護士の日置巴美委員、よろしくお願いいいたします。

【日置委員】三浦法律事務所の日置でございます。準備会から3年目ということになりますが、産官学いずれの場面でも、そしてデータ連携基盤も、議論が加速してきています。東京都はフロントランナーとして、今年も頑張っていければなと思っています。

東京データプラットフォームのビジョン・ミッション実現のため、ステークホルダーの保護と利益の最大化を企図しつつ、法務の観点からいろいろコメントさせていただければと思いますので、引き続きよろしくお願いいいたします。

【事務局】ありがとうございます。以上の委員のみなさまと本協議会を進めてまいりますので、よろしくお願いいいたします。

### 3. 第4回推進会議の振り返り

【事務局】続きまして、第4回の推進会議の振り返りに移りたいと思います。前回の推進会議の意見交換を通じて、委員の皆様からいただいたご意見ですとか、開催後のアンケートを通じ、参加者の皆さま方からいただいた意見と、その対応方針についてご説明させていただければと思います。また、その後、TDPF協議会の推進計画、令和4年度事業の取組内容についても説明させていただければと思います。それでは、東京都の若井部長、よろしくお願いたします。

【若井部長】東京都デジタルサービス局でデータ利活用担当部長しております、若井と申します。本日はどうぞよろしくお願いたします。

本日もたくさんの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。早速説明の方に入らせていただきます。

まず始めに、第4回推進会議で各委員からいただいた主なご意見と対応方針をまとめております。TDPFの進め方や事業計画案について、ビジョン・ミッションに盛り込むべき考え方や今後注力すべき分野につきまして、ご意見をいただいております。人々のウェルビーイング、社会的弱者の観点、環境の分野、社会課題の解決という目的を見失うことなく、今後の事業計画案に反映をまいります。

先程のページのご意見に加えまして、TDPFのトラストやデータのフォーマット、データ連携基盤などについて法令や規制に関する検討の必要性や、プラットフォームの実装に関するご意見もいただいております。トラストについては、信頼は重視しつつ、ルールを厳格化しすぎないバランスのとり方や人材育成体制づくりの重要性と議論が必要なポイントについてご意見を頂きました。こちらは今年度WG化し、議論を進める計画としておりまして、後程詳細をご説明いたします。

また、コミュニティ形成やデータ利活用整備の進め方について、アドバイザーの必要性や日常の中でデータを活用し、流通させる仕組みを構築すべきといったご意見もいただいております。こちら後ほどご説明する、今年度の活動計画に取り入れております。

こちらのページでは、第4回推進会議の参加者からいただいたアンケートの一部回答を集約抜粋して記載しております。大きく分けるとTDPFの取組方針、コミュニティ形成、データ連携基盤、データ整備についてご意見をいただいております、こちら記載した対応方針に基づき、今年度の活動計画に盛り込む取組を進めてまいります。

#### 4. TDPF の推進計画

【若井部長】続いて TDPF の推進計画をご説明します。東京都では東京版 Society 5.0 の実現を目指し、令和 2 年にスマート東京実施戦略を策定し、デジタルサービスによる都民の QOL 向上のため、データプラットフォーム推進を実施しております。

こちらが昨年度に議論し設定した TDPF のビジョン・ミッションとなります。データ流通を促進し、イノベーションを後押しすることで、すべての人が快適に暮らし、働くことができる社会とすることをビジョンとして掲げ、都民データ利活用に関わるあらゆる人達と共に安心してデータ利活用できる社会の実現を目指します。また「つながる・流れる・進化する」をキーワードとして各事業に取り組んでまいります。

こちら TDPF 事業の目標です。まず、活発なデータ利活用事例の創出が行われるコミュニティを通じて社会課題の解決に貢献できること、次にデータ整備事業を通じて社会のデータ整理コスト低減を図ること、そしてオープンかつワンストップで多種多様なデータを取り扱えるデータ連携基盤を提供できていること、最後にデータ利活用に関するルール運用体制の整備を通じ、安心してデータ利活用に取り組める環境を提供できていること。2025 年にこれらの目標を達成し、社会的課題の解決に繋がっていることを目指しております。

TDPF の注力分野の考え方について説明します。データ活用する分野は多様でありまして、国や民間等でも、様々なデータプラットフォームサービスやデータ活用の事業の創出が進んでいるため、TDPF の取組分野についての考え方を定めております。

未来の東京戦略等に沿って重点的に取り組む必要性、他のデータプラットフォームとの棲み分けが明確、広域自治体である東京都がやる必要性、行政の介入意義、個人情報を含まない、という 5 つの観点でフォーカス分野を検討しております。

こちらが現在の TDPF の注力分野となります。まず防災・まちづくりをフォーカス分野に選定し取組を推進してまいりました。今年度は、この 2 分野に引き続き取り組みながら、新たな分野でのニーズの探索を進めてまいります。

次に推進計画の概要についてです。まず、協議会を設立し、コミュニティづくりに昨年度は着手をいたしました。今年度は、この協議会とコミュニティ活動の強化によるユースケースの創出を拡大し、仮想データ連携基盤での実証にも着手をいたします。

こちらは TDPF の事業と位置付けを示しております。スマート東京の実現のため、TDPF ではコミュニティ構築と、ユースケースの創出、データ整備、ポリシー整備、基盤の構築のこの 5 つを柱としまして事業を実施しております。

前項でお示した、各 5 つの事業別の TDPF のロードマップがこちらになります。それぞれ取組は、令和 2 年度から令和 3 年度の取組を元に、今年度さらに拡張、具体化してまいります。詳細はこの後ご説明をさせていただきます。

ご説明した TDPF の活動内容は、東京都デジタルサービス局のホームページや YouTube で公開しております。こちらにお示ししております QR コードからアクセスをいただき

ます。これまでの経緯の振り返りや、新たにご興味をお持ちの方へのご案内等にご活用ください。



## 5. TDPF 協議会の令和4年度取組内容

【若井部長】続いて TDPF 協議会の令和4年度取組内容をご紹介します。

こちらは令和4年度 TDPF 協議会の概要ですが、今年度の TDPF 協議会はデータ利活用の価値を多数発見すべく、WG の活動の拡大に注力してまいります。

昨年度実施していた混雑 WG は一定の成果を出して役割を終えまして、施設系データ集約 WG に共通的な検討事項を統合し、今年度は「防災データ」、「施設系データ集約」という二つの WG が活動を継続してまいります。

そして、新たな3つの WG の立ち上げを行いまして、計5つの WG の活動を目指してまいります。立ち上げ予定の新 WG については後ほどご説明をいたします。

また、各分野からの助言を得るアドバイザー制度を試行しまして、ユースケースを多数創出できる体制の構築も行います。

こちらは令和4年度の推進会議のテーマ案です。本年度も四半期ごとに推進会議を開催して、各取組や各事業の進捗をご報告してまいります。

既存の2つの WG につきましては、後ほどご紹介しますが、取組を進化させるとともに、昨年度活動で見えてきたニーズや価値創出の可能性を元に、新たに TDPF トラスト検討 WG、エリア連携 WG、そして TDPF Meet-up という企画を通じた3つ目の WG（新分野のテーマ開拓）を行います。

一つ目として、TDPF トラスト検討 WG をご説明します。会議冒頭の昨年の振り返りでも触れましたけれども、TDPF におけるトラストの考え方として明確にして行くべき論点をいくつかいただいております、こちらを WG 化して検討してまいります。

データに対するトラスト、参加者に対するトラストの2つの視点で、安心してデータの流通と利活用を行うための施策を議論してまいります。

まずどうすれば TDPF 参加者が場を信頼できるのかや、信頼性を要求する度合いと参加しやすさのバランスなど、TDPF におけるトラストのあるべき姿を明確化し、それに対する施策を具体化してまいります。これらの内容をポリシー策定やデータ連携基盤の構築の要件にインプットしてまいります。

WG の内容は公開し、透明性を高くトラストを検討して行く予定です。

近年、データ利活用の推進に向け、国や民間事業者でもトラストの議論が現在進行形で進められております。データ利活用の前提事項や立場によって、論点は多種多様に異なりまして、TDPF トラスト検討 WG では TDPF におけるトラストのあり方と規格を具体化してまいります。

2つ目として、エリア連携 WG をご説明します。現在南大沢、西新宿、ベイエリア、大丸有、竹芝、豊洲といったスマート東京の先行実施エリアにおきまして、スマートシティの取組を推進しております。これらの地域で実証中の施策を相互に繋ぐことで、エリア間のデータ連携により、さらに大きな価値を生むユースケースの創出や、データに係るルール、技

術課題の共同解決を行えるのではないかと考えております。

一緒に検討しているエリアは、今後も拡大をして行くことを想定しておりまして、各エリアの取組関係者と議論を行いながら、WGの立ち上げに向け準備を進めております。

3つ目の新規WGテーマの発掘を行うTDPF Meet-upについてご説明いたします。すべての人が快適に暮らし、働くことができる社会、スマート東京の実現に必要な、新分野テーマを発掘すべく、エネルギー、観光教育など、新たなテーマを設定し、当該テーマにおけるデータ利活用ニーズを議論するワークショップを開催いたします。

テーマに係る事業を行う事業者様や、そのテーマに貢献できる可能性があるデータを保有しているであろう事業者様に参加をお願いしまして、新たな価値の発見を行う場づくりを行います。

ご興味をお持ちのテーマがあれば、ぜひ積極的にご参加をいただければと思います。Meet-upを通じて発掘された有益なユースケースや検討テーマは、WGとして組成をしてまいります。

**【事務局】**若井部長ありがとうございました。今、一部の参加者の皆様に、入室のトラブルがあるようです。大変失礼いたしました。現在は入室できるようになっていますので、よろしく願いいたします。

ただ今、若井部長より説明がありましたTDPF Meet-upに関して、みなさまのご意見を伺えればと思います。

すでに先ほど回答いただいた方は、冒頭で回答いただいた画面をご用意いただければと思います。ブラウザを閉じられた方や、読み取りがまだの方は、こちらの、今投影させていただいていますQRコードより参加いただければと思います。もし画面が変わらないなどありましたら、ブラウザ閉じていただき、再起動していただくと回答が可能になります。

さっそく投稿をお願いできればと思うんですけども。あ、来ましたね。どの辺が興味ありますか。やっぱり世の中を騒がしている分野、エネルギーですか。あ、そうでもないですね。観光、子育て、比較的まんべんなく、参加者の特性にあってるっていう状態ですかね。観光はこれからのテーマとして討議していきたいと思います。農林水産が少ないというのが東京都の特性なんですかね。ありがとうございます。「その他」を選択された方はZoomのチャット欄へ記載いただければと思います。皆様、回答ありがとうございます。

## 6. 意見交換①

【事務局】そうしましたら、早速ですが、意見交換に移らせていただければと思います。

本日まで出席いただいている委員の皆様中心にご意見深まればと思います。参加者の皆さんも、ぜひ Zoom のチャットでご意見をいただければと思います。

まず議題ですが、若井部長より新規 WG 立ち上げについて、3つ説明させていただきました。昨年度からコメントをいただいている「安心して参加者がデータを提供・利用できる」とか、そもそも「参加できるようにする」ためのトラストについて、取組が行われている各エリアで連携していきその中でユースケースを創出していくことについて、そしてさまざまな社会課題の発掘とか、先ほどのアンケートにもあったエネルギー分野とか、これから盛り上げていきたい観光分野とかを、Meet-up っていう形で新規分野を開拓していくということについて、です。

比較的盛りだくさんな（音声途切れ部分補足：取組を行っていかこうと思っているのです）都民にとっての社会というのが TDPF の一つかなと思いますし、TDPF 自体のミッション・ビジョンを踏まえて、各委員の視点でご意見をいただければなあと思います。

それでは早速いきたいと思います。指名させていただきますので、よろしく願いいたします。それでは早速ですが、越塚委員にお願いできればと思います。新規 WG として予定しているトラストについて昨年度から検討の重要性や議論すべき論点などをご指摘いただいた部分ですとか、それに加えて何かご意見頂戴できればと思います。よろしく願いいたします。

【越塚委員】はい。どうもありがとうございます。ご説明もありがとうございます。あと前回までいろいろ多分、私の方で申し上げた意見もだいふ取り上げていただいて、ご対応のことを少しお話いただいとうもありがとうございます。

それでこのデータ関係の TDPF もそうなんですけども、データプラットフォームで全般的に一番思うことっていうのは、例えば、先ほど日置先生が、東京都さんのこの取組を、フロントランナーとおっしゃられていましたが、まさにフロントランナーで、特に自治体ベースでやっているものに関しては、フロントランナーでやられていると。そうするとこれ一番難しいのって、フロントランナーでこれ先頭を走っているとお手本がないんですね。だから TDPF ってこれと同じようにやればいいんだよねとか、「なにかお手本無いですか」とかいうのがない。だから見たことがない、誰も見たことがないもの誰も触ったことがないものを、今は皆さんでこう作ろうとしているのは、たぶん TDPF を今後進めていく時に難しいところでもあり、面白い所というか、関わっている方にとってはやりがいのあるところなんだと思うんですね。

ただ、こういう見たこともないものっていうのって、皆さんの頭の中にあるものが結構違うんじゃないかなと。思っていることは違う。で、多分、それは都民の方々っていうことで

言うと、またこれの中心になって企画している我々みたいな者と、これ参加している方それぞれも違うし、また都民の方も違う、そういう意味でなにが重要かっていうと、やっぱりよく議論することだと思うんですね。

よく議論をして、どういうものを作ってるかってことをうまく情報共有して価値観共有して進めていくっていうのがちょっと大変なのかもしれないんだけども。お手本があれば、これだって言えばわかりやすいんですけど、そうじゃないと、全部言葉にして、議論して進めていかなきゃ。そういう意味で今回、WGをいろいろ立ち上げられたり、Meet-upのことをやったり、とても大事だと思いました。

だからそういうことをやることで、急激には進まないところもあるかもしれないんですけども、初めてこういうもの、見えないもの、見たこともないものを作っていくわけなので、そういう意味だとこういうところでいろいろ議論してるのが重要だと思ったのが一点目です。

あと二点目は、このデータっていうのは、あらゆることに関係してくるものだと思うんですね。そうすると世の中も激しく今動いてますので、特にね、今、観光なんていうのをみると、今までコロナっていうものが2年ぐらい前、3年ぐらいに、ガーンとやってきて大きく変わって、またそこから元に戻るフェーズ入ってくるというか、そういう意味で、また観光が復活してくるんだだろうなあっていう。またそういうのが注目されてきたりとか、今エネルギーのことも課題になってたりとか、かたやそのエネルギーにも関係しますけれども、グリーンとかですよね。カーボンニュートラルとか。そのやってることも今、特に産業界から中心として非常に急激に来てるんで、いずれにおいてもデータは重要な分野ですよ。というようなそういう社会の新しい動きも、このTDPFの検討と同時並行してどんどん起こっているんで、まさに今回のこういうWGの中で、そういうものを取り上げてやっていくということもね、とても重要だと思いますので、そういう活動をぜひ、TDPF、これから実現して行く段階になってきますので、そういうことを積み重ねてやっていくということがとても大切だと思いました。

あとトラストに関しては、ちょっと専門的になりすぎちゃうところもあるので難しいところもあるのと、できること・できないこと、いろいろありますけれども、国レベルとか、国際レベルの段階でのいろんな議論とか、そういうのもこれのドキュメントであった他の取組とかそういうところがありますけれども、それが東京都の中のローカルガバメントの中でのトラストと、外で活発にやられていることとは、違うことも大分あるので、あくまでもこの場合はTDPFの中でデータをやり取りするときのそのデータであるとか、それに参加する主体のトラストをどういうふうに確保するかっていうことに少し絞って、実現性の高い形のほうにフォーカスして話をしていくことが重要かなと思いました。

はい、以上です。

【事務局】越塚先生、ありがとうございます。

「誰も見たことがないものを作ろうとしている」というご意見は大変興味深い、ありがたいご意見かと思います。また「手本がない中でフロントランナーとしての東京がやるべきことを議論して行くべき」、「エリア連携検討 WG や、Meet-up で社会課題の解決に向かう際など、データがあらゆることに関係している」、「グローバルの議論と、東京都としての議論の違いを理解したうえでの TDPF のトラストを検討する必要がある」などのご意見をいただきました。

次に佐藤委員にお伺いします。様々な参加者が興味をお持ちのテーマの発掘や、データ提供者、利用者を相互に出会わせる場づくりとして Meet-up があると考えていますが、普段支援されている中で、企業様が参加しやすくなるメリットの提示や、盛り上げる方法などについてアドバイスがございましたら、よろしく願いいたします。

【佐藤委員】Meet-up が、コロナが明けてやっとならできるようになってきました。ハッカソンも含めて、どんだんリアルでいろんな人たちが出会って、イノベーションを起こしていくことができるようになったのは、本当に素晴らしいことだと思っています。

データの活用については、カバレッジのところも、トラストも、もちろん大事なんですが、最近はデータのアップデートスピードもすごく大事になってきています。そのデータもクリーニングを常にしていかなきゃいけない。「どれだけの情報量をどのスピードで出していくのか」というところが、スタートアップなどがサービスを作るうえでも重要になってきて、データが使えるのかを判断する一つの材料になってくると思います。スピードが求められつつあるところで、いちいちデータを整理して出していると、そのスピードに耐えられないということです。最近インターネット業界が、Web3 のような流れも含めて、データを整備するところなどに貢献した人に対して、その貢献度合いに応じて、ブロックチェーン等で、「この人はこのくらい貢献しました」というのが可視化できるような仕組みがあるんですね。将来的に、カーボンオフセットや排出量取引とかで目に見える形になったときに、それが還元できるような仕組みや、そういった今までだったらちょっとできなかったようなこと、例えばボランティアや受託のような形でやってたものが、Web3 という新しい世界の流れというのがインターネット業界では出てきている中で、そういう取組が、もしかしたら世界に先駆けて東京都だったらできるのかもしれない、みたいなことを思っています。

この辺りは私も勉強中で、まだまだインターネットが出てきた初期の頃の混沌とした状況もあったりするので、どこまで取り入れるのかというのがあります。世界ではそういった流れがあって、このコミュニティを盛り上げることに注力して貢献した人がいづれちゃんと報われる。ブロックチェーンでそういう貢献が可視化される時代になってきているというところでも、すごくいい流れというのが作れるのかなと思っています。

あと、新しい WG を作るというところで、先ほどコメントにも一部ありましたが、私も子供の教育を見ているんですけど、学習データ、例えば子供たちがどれくらい学習して、ど

のジャンルが日本で強いのかとか、そういうものを可視化することによって、不動産データに結びついてその町が活性化するとかも、結構あると思うんです。最近、東京だけでなく、様々な地方の面白い学校がたくさん出てきていますので、そういった学習データを分析することによって、地方の特徴ある教育がまた注目を浴びたり、さまざまなことにつながるのかな、なんていうふうに考えております。

そんな意味で TDPF の活動は、これから最先端の取組になるので、わくわくしているところでございます。

【事務局】佐藤委員、ありがとうございます。「データをアップデートしていくスピード、情報の転送・交換・共有スピードが非常に大事」というご意見をいただきました。また「Web3の潮流や、ブロックチェーン、NFT、メタバースなどの技術を使いながら、どうやって生活者への貢献を担保していくか」といった点も重要だということですね。新しい WG に関しても、「学習データや地方の特性を生かしていくのも大事」ということを伺うことができました。

続きまして南雲委員にお伺いできればと思います。東京都でも検討しているエリア連携 WG などは、スマートシティインスティテュートの活動とも関係する部分が多いように思っております。様々なスマートシティの事例をご存知かと思っておりますので、それらの知見を踏まえてご意見いただければと思います。よろしく願いいたします。

【南雲委員】はい、ありがとうございます。エリア連携と Meet-up について少しコメントをさせていただければと思います。

まず1点目に、どちらもどこまで出来るのかというのは、実はお題目ではなく、担う人のキャパシティやケイパビリティの関数だということだと思います。学習をしながらやらなきゃいけないというところもある。難しさをどう乗り越えていくのかが大きな課題、チャレンジだと思います。先ほどから「フロントランナー」という言葉が出てくるとは思いますが、やったこと・やってないことも含めて、今までの既存の枠組みを超えて、何をどうしたらいいのかという発想力。それから広域になるっていうことは巻き込み力ですよね。例えば隣の自治体や生活圏って、東京都内の場合もあるんですけども、神奈川県とか千葉県と埼玉県とかも繋がってるので、そういったところとの対話をしながら巻き込んでいく力。なおかつそれを実行しているわけですから、新しいキャパシティビルディングを裏メニューとしてもっていないと、「できることだけやる」という話になってしまい、縮小均衡するリスクがあるんだと思うんですね。なので、その能力をどう身に付けていくのもよく考えていく必要がある。これは事務局を含めて、皆さんの中にメニューとして、プログラムを備えておく必要が僕はあると思います。

確かに東京＝フロントランナーという形に、日本の中では少なくともそうだと思いますが、発想の源っていうのは必ずしも日本だけにあるわけではない。やっぱりいろんな海外の

知見も、ネットワークを作りながら恒常的に流れてきて、逆に東京で生まれたものは彼らに提供するというような、そういうフェーズに入っているんだと思いますね。頭を柔軟にするっていうところからはじまっていくことの重要性があると思います。それが実行力と言うことですね。

実行フェーズに入ったということは、あと何が出てくるかという、目先のことにとらわれすぎてしまってビッグビジョンを見失う、っていうふうには人間はなっていっちゃうんですね。

なので、「大きなビジョンに立ち戻る」というビジョンも、場合によっては進化させていく。大型の学習ループっていうのも持っていないと、特にプロジェクトなんて特にそうなんですけども、せせこましいところになっていってしまうので、そこは留意点だと思います。

東京都なので、いろんなお題が出てくると思うんですけども、フォーカスとかプライオリティーも段々曖昧になっているフェーズになったと思うんですね。なのでここは、やるものとやらないもの、エグジット基準みたいなものを含めて、明確に、「この辺はある程度クールなところでやっていく」みたいなものも持っていないと、全てに対していい顔というか、良かれと思って手を差し伸べると動けなくなっちゃう。そこは気を付ける必要があるかなと思います。

同じようにスマートシティインスティテュートも国内外とのネットワークの中でいろんな政策提言をやっていくという形になってきますが、やっぱりフォーカスは人材だと思ってまして、どうやってその次世代の日本を作っていく、東京都をつくっていく人材をこのフィールドワークを通じて育成することができるのか。「都市経営」という言葉がありますが、そこはとても大きな課題だと思っていて、この関数でどこまで取れるかが決まると思っています。

国内外問わず自治体の枠を問わず、新しい柔軟な発想で、やれる人を作りながら進めていくところについて、評価していただけるといいかなと思います。

**【事務局】** ありがとうございます。「やる人のケイパビリティが影響するため、キャパシティビルディングが大事だというご意見」、「他エリアとの対話は、巻き込み力もポイント。そのためにも人材育成も必要」といった点は非常に重要だと思いました。

続きまして、庄司委員にご意見を伺います。Meet-up やケーススタディ事業のご支援をいただいているかと思います。そこでの課題感や、継続的に取り組んでいくためのポイントがございましたらご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

**【庄司委員】** はい、ありがとうございます。順番に申し上げます。

まず TDPF のトラストについては、先ほど越塚先生もおっしゃっていましたが、抽象的・概念的に整理するよりは、具体的に「TDPF には誰がいて、どういうことしている

か」ということをしっかり信頼あるものにする。そして外部にそれを見せることでトラストを獲得していく。「具体的な見える化と根拠ある担保」というような、トラストの担保のようなことをして行く必要があると思います。

「トラストってなんだろうね」といった議論よりは、実装に近い所をやったほうがいいと思います。その意味では、地元根差した企業というか、東京は企業が沢山ありますけれども、この人たちがコミットしてるんだということ。企業であるとか、私たちのような専門家的な立場の人とかですね、あるいは都庁の中もそうですが、顔がはっきり見えていく、ということはとても重要なんだと思います。特に企業ですね。企業も、「お付き合いで参加します」ではなく、「TDPFを一緒に作っていきましょう」という、そういう企業が入ってくるといいなと思いました。

それからエリア連携について、個人的には、ディベロッパーが大規模に新しく何かを取り組んでいます、というところでのスマートシティだけではない。私は隅田川の東側に住んでいますけれども、そういうたくさん昔からの住宅が密集しているエリアのようなところでのスマートって何だろう？というところも加わっていただけらいいと思いました。そういうところが東京は多いですので、目を配っていくのがよいと思います。

また Meet-up などの新規分野の開拓については、イベントやっておしまいではなく、イベントやってこんなことが起こったよ、こんな人がいたよということを見える化していく、ということを目指したいです。

それから、先ほど佐藤委員から Web3 の話がありましたが、私としては、普段は DX の文脈ではあまり Web3 とかには手を出さないでもっと地味なことやったほうがいいんじゃないかという慎重派なんですけど、この文脈においては、新しいことにチャレンジしている人たちが、どんどん寄ってきてくれるというのはとても大事なことです。私もそれがこのデータプラットフォームとどうつながるかよく考えないといけないところもありますが、とにかく人々が集まってくることが大事だと思います。

その意味では、東京は、例えば文化ですよね。文化・コンテンツ系の人たちも非常にいるはずですし、最近はロボットとか、ゲームとか、新しい文化がたくさんあります。そういうものと、このデータプラットフォームが、どうつながるのか。そういう応用問題を、新しく集まってくれる人たちとやっていったらいいと思います。

課題解決というのがどうしても先に立ってしまうんですが、あまり「課題解決課題解決」と言ってしまうと、教育と福祉と、、など、割と真面目な、地味なになりがちなので、必ずしもあまり課題解決を前面に出しすぎなくてもいいのではないかなと思いました。

熱量を大事にするということも重要ですし、ケーススタディ事業を見ていて思うのが、「失敗してもいいからとにかく来てくれ、何回もやろう」という継続性、チャレンジみたいなことを促していければいいんじゃないかと思いました。

以上です。



【事務局】ありがとうございます。TDPF の利用を通じて信頼の可視化を目指していくことも重要と思いました。また「エリア連携においては、ディベロッパーの取組だけではなく、様々なエリアや人々がいらっしやる中で、東京の特性を活かす取組も重要」とご意見いただきました。ロボットやゲームなども含め、様々な文化をテーマに、失敗してもいいから何度でもやりましょうというご意見、ありがとうございます。

お時間の関係で、越塚先生が先にご退席されております。いろいろな貴重な意見を最初にいただきまして、どうもありがとうございました。

次に日置委員にお伺いします。特にトラスト観点やエリア連携でも、法律観点は非常に重要だと思います。また新規 WG の企画を行う中で、法律の専門家目線での注意点ございましたら、ご意見頂戴したいと思います。

【日置委員】はい。今回、東京データプラットフォームの取組が実装フェーズに入っていくということで、具体的に、ルール作りや、データ整備と基盤構築が進んでいくわけです。ここで少し視点を変えて、どういう形で順序立てて進めていくとこれらの取組を加速できるんだろう、実装できるんだろうというところを考えていました。

私が日頃お手伝いさせていただく案件としては、2社とか、3～4社とか、そんなに大きくない中でデータ取引を行う、あるいは共同事業を行うことが多いんですけども、その時でも課題や目標があって、何をやりたいのかという目的があります。その上で、その目的との関係で、こういうデータが使いたいですというところを達成するには、法務的な観点からは、「こういう行政規制ならこういう対応をしなきゃいけない」、「データを保護するためにはこういうところを考えなきゃいけない」というのを、一個ずつ、かなり時間をかけて、調整しながら最終的に契約に落とし込む。そして実務フェーズに入って実行するんですけど、最初にデータ整備され、データ基盤があり、ルールがあって、そこに「皆さん入ってきてください」というところにするためには、多分今申し上げた、その2社か、複数者間の関係の話全部洗い出した上で、ケースを想定してルールを作ったり、システム構築したり、データを整理したりとかいうのしなきゃいけない。実際に具体化していくところってすごく大変なんじゃないか、というところがあります。

その時に、想像だけで何かを進めるのは非常に難しい。越塚先生のお話で「前例がないってところがある」という話もあったと思うんですが、そうするとエリア連携 WG であるとか、Meet-up の中で話を拾いながら、ああでもないこうでもないでディスカッションしながら、やっていくしかないのかなと。

もっといい進め方もあるのかもしれないので、今申し上げたような観点を持ちながら今年1年間を進めていくのが良いのではないかと考えております。

【事務局】ありがとうございます。

共同事業として実施する場合、複数社の関係や、データ保護の観点など調整しながら進め

ていくところが難しいポイントになると思いました。契約に落とし込んでいくところもそうかもしれません。

【日置委員】実務上、2社間だったら順序立ててやれるわけですが、既存プラットフォームとしてやるという話なので、その中でスピードも担保するためには、全部フルセットで提供しなきゃいけないところ。結構注力しながらやらないとミスるんじゃないかなってというのが気になります。

【事務局】そのためにも、最初に課題、目標、目的、ビッグビジョンを忘れずにということも大事ですよ。先ほども南雲委員からもありましたけれども、そういったところもポイントになるのかなと思いました。ありがとうございます。

5人の委員の方からご意見をいただきました。最後に宮坂副知事から一言お願いできればと思います。

【宮坂副知事】はい、どうもいろいろ活発に意見ありがとうございました。Meet-upに関する言及が非常に多かったかなと思いました。

いくつかの委員の先生からも言及がありましたけど、誰も見たことがないものを作るという取組になりますので、たくさんの人の想像力とか、知恵を集めるのが非常に大事だと思います。

チャットの方を見ても、非常に活発な意見をもらっていますけど、コロナもちょっと落ち着いたところもありますので、ぜひオフラインを含めた Meet-up とかをどんどんやって、形ができればいいかなと思います。

ただ、あまり壮大なものを最初からやろうとしても、あんまり役に立たないものになっちゃうような気もしますので、小さくてもいいんでしっかり「あってよかった」と思えるような、クイックインにつながるような役に立つものが作っていければいいんじゃないかなと思いました。皆さん、ありがとうございました。

【事務局】宮坂副知事、ありがとうございます。  
手触り感のあるものを作ることも大事だと思います。ありがとうございます。

## 7. 各事業の令和3年度振り返りと令和4年度計画

【事務局】 それでは各事業の、令和3年度振り返りと令和4年度の計画の説明に移らせていただきます。若井部長、よろしくお願いいたします。

【若井部長】 はい。それでは始めにWGの活動についてご説明いたします。

新規WGの立ち上げについては前半でご説明しましたので、昨年度から継続しております、防災データWG、施設系データ集約WGの昨年度の振り返りと今年度計画をご説明いたします

まず、防災データWGです。防災に役立つ官民のデータをTDPFが仲介し、流通を拡大することを目的に活動しております。

こちらが今年度の活動計画となります。活動①「ユースケースの実装に向けたデータ収集、提供方法などを具体化」では昨年度のユースケースを元に発災時にどのようなデータがどのようなタイミングで必要となるのかを詳細に洗い出し、それらのデータを必要としている人々に届ける手段などを検討します。

活動②「防災関連のデータ利活用事例の創出を継続」では、平時にも防災の観点からTDPF上のデータを役立てるビジネスケースを探索します。また、WGの取組に対し、多くの方に認知いただき、ご意見をいただきながら活用の道筋を見出していくことを検討しています。

続いて施設系データ集約WGのご紹介です。こちらは、官と民の施設設備データ、バリアフリー施設情報等を集約し、その利活用を通じて、あらゆる来訪者が街で快適に過ごせるサービスの提供を後押しすることを、目指しております。

昨年度はまずこちらの西新宿エリア、トイレ施設を対象としてモデルケースづくりに取り組んでまいりました。

次に施設系データ集約WGの今年度の活動についてご説明いたします。活動①「課題検証を通じたモデルケース確立」では、昨年度行ったデータ収集の事例をもとにデータを取得する仕組みを広く実装するための手法を検討し、フォーマット化を進めます。

この活動と並行しまして活動②「西新宿エリア以外、トイレ施設以外での展開に向けた準備」では、他のエリアにおけるニーズの調査や、他のエリアや施設への展開に必要な項目を検討します。

ここでSlackコミュニティについてお知らせします。協議会、WGなどの会議体だけではなく、Slackにて東京データプラットフォーム協議会ワークスペースを運用しております。現在すでに産官学の多様な方々にご参加をいただいております。データ活用に関する発信、意見交換による気づきと出会いの場として、更に活性化を図ってまいりますので、登録がまだの方はぜひご参加をいただければと思います。

今年度の新たな取組となるアドバイザー制度についてご説明します。昨年度の協議会等

で皆様からのご意見を受けまして、データ利活用に関する専門家が課題解決をサポートする制度を構築いたします。

WG やケーススタディ事業の活動における課題解決のサポートや TDPF にご期待を持ちながらも、ユースケース創出や技術知見などの課題を抱える参加者の皆様に専門家がサポートし、価値の創出へ伴走いたします。現在制度設計を進めておりまして、下半期に試行を実施します。来年度以降、本格制度化をし、サポート範囲を徐々に広げてまいりますので、ご期待ください。

**【事務局】**ただいま説明がありましたアドバイザー制度に関して、皆様のご意見をいただければと思います。

先ほど回答いただいた方は、冒頭で回答された画面をご用意ください。ブラウザを閉じられた方や読み取りがまだの方は、QR コードから参加いただければと思います。具体的にどのようなアドバイスがほしいか、あるいは期待する支援内容など。あるいはどんなビジネスの形にするのか、データ活用、主軸となるユースケース作りとかですね。そうなってくると、法務相談や、データ分析技術みたいなのところも出てくるのかなと思います。

チャットについても、いろいろご意見ありがとうございます。ご質問はどしどし入れていただければと思います。

そうしましたら、次の次第に移りたいと思います。若井部長、よろしく願いいたします。

**【若井部長】**はい。それでは引き続き TDPF 関連事業の昨年度の取組と今年度計画についてご説明をいたします。

ケーススタディ事業3プロジェクトの概要についてご説明いたします。昨年度ケーススタディ事業では新型コロナウイルス感染症防止対策を始め、社会的な課題解決に資する3つのカテゴリでプロジェクトを実施しました。本事業ではプロジェクト実施者以外にも、36社に効果検証にご参加をいただきまして、新たな気づきをいただきました。また、データ取得調整段階における課題等を抽出し、今後に向けたToDoを整理いたしました。

今年度のケーススタディ事業では、昨年度のWGでの検討内容とも連携し、施設系データの集約と利活用、防災データの利活用と、スマート東京実施戦略にするその他のテーマの3つを公募いたしました。これらのテーマをTDPFが運営する仮想データ連携基盤で実証し、要件フィードバックやポリシー案の課題洗い出しにも繋げてまいります。6月7日の公募締切までに多数の応募いただきました。応募いただきました皆様、誠にありがとうございました。現在審査を行っておりまして、7月の中旬に選定結果を公表予定となっております。そこから年内にかけて実施を行ってまいります。協議会での進捗の報告や関連イベントで随時情報共有させていただきます。

続いてデータ整備事業についてご説明します。データ整備事業では利活用に適していない状態にある既存データを、利活用しやすい状態にするためのフォーマットの定義やデー

タ作成のルール作りに取り組んでおります。昨年度は自治体にご協力いただきまして、7つの自治体で、地域年齢別人口データ等、9パターンの整備作業を実施いたしました。本事業ではそれぞれの取組の状況に応じてデータ制限モデルとしてのマニュアル化を行いました。

今年度のデータ整備事業は、民間事業者の保有データなど、昨年度取り扱わなかったデータも対象に、機械判読可能な形式へのデータ整備を行いまして、TDPFを通じた民間のデータ利活用の促進に取り組めます。この取組に参画いただける民間からの公募、それから自治体へのアンケートを今実施しております。特に民間事業者様へ TDPF への興味関心とデータ保有管理に関するアンケートを実施しております。

また、データ整備用のデータを提供いただける事業者様も募集をしております。アンケートおよびデータ提供につきまして、ぜひともご協力をお願いいたします。

続いてポリシー案の改訂とアドバイザリーボードの設置準備についてご説明いたします。TDPFの規約、指針として令和2年度にポリシー案1.0を策定し、その後令和3年度のWG、ケーススタディ事業、データ事業整備等で議論をされた具体的なユースケースに適用した結果で、ブラッシュアップを行い、ポリシー案1.1へ改訂いたしました。

こちらが今年度の活動になります。今年度も TDPF 各取組でポリシー案を適用させた結果でのフィードバックをもとに条項案を見直し、年明け頃にポリシー策定委員会を開催して改訂を行ってまいります。

また本格事業化後の体制づくりに向けて、第三者の視点で TDPF 事業運営に対する提言を行い、透明性を保つためのアドバイザリーボードの設置の準備を進めてまいります。現在設置要綱の策定を進めておりまして、これからご参画いただくメンバーの選定調整を行ってまいります。

続いて、データ連携基盤事業についてです。昨年度 TDPF でデータを連携する基盤の要件定義書を策定し、オープンデータとして公開いたしました。官民が保有するデータの連携を仲介すること、参加者が安心してデータを提供活用できる事、また徐々に利活用者が増えていくことを前提に大きなデータベースは作らない、トラストの確保、リーンスタートと拡張性をコンセプトとしております。

今年度は昨年度策定した要件定義書を元にデータ登録、提供機能を備えた仮想データ連携基盤を構築し、ケーススタディ事業等で活用してまいります。利用者からのフィードバック及び TDPF 協議会での提言、国や各団体の動向を踏まえ、要件定義書の改版も行います。

**【事務局】**若井部長、ありがとうございます。ここで少しコメントを拾いたいと思います。ご意見をたくさん寄せていただいてありがとうございます。

ポリシーをどのように作っていくかも大事ですし、ユースケースとか、図書館、博物館、公民館の活用ですとか、文化施設、文化活動のデータ利用などもありますね。学習、研究、創作などの、いわゆる東京都には広いデータがありますよねというところも。また、きちん

とデータのガバナンス、主権のあり方、データ利活用に係る権利など、共通の用語定義や認識をもとにアクセスを明確にさせていただくというコメントがあります。

あとはコロナ禍ですね。今、電車が混雑してきましたけれども、鉄道沿線まちづくりをデジタルツインの発想で、というのはなかなか面白いかもしれません。貴重なご意見ありがとうございます。

東京都の中に存在しているデータや TDPF をどのように活用していくんだといったところや、取組エリアをどうやって定義していくとか。利活用やポリシーを進めるのもそうですし、様々な皆さんのご意見を参考にさせていただきながら、協議会、TDPF 事業を推進できればと思っております。

あと、アドバイザー支援のメニュー化は、今後の検討事項として考えさせていただいております。「こういったことも相談できるといいんじゃないか」とか、「こういったところが困るんじゃないか」というところ、初めての取組でもあるので、そこも想像や考えながら、やりながら進めていくところも、ご意見をいただければと思います。

## 8. 意見交換②

【事務局】2回目の意見交換に移らせていただきます。意見交換の中でも、皆さんにチャットで色々ご意見を寄せていただければと思います。

2回目の議題は、若井部長からも説明がありました「TDPF各事業の令和4年度計画について」となります。新たな取組となるアドバイザー制度や、ケーススタディ事業ですとか、データ整理事業、ポリシー策定、データ連携基盤事業などを、令和4年度の事業計画として考えております。

各関連事業もそれぞれ、本格化に向けた体制づくり、実装や具体化をしていきますけれども、今年度の取組に向けて委員の皆様からアドバイスをいただければと思います。

まずは新たな取組であるアドバイザー制度についてお聞きしたいと思います。以前アドバイザー制度のご提言をいただいております庄司先生から最初の（音声途切れ補足：コメントをいただければと思います。）

【庄司委員】すみません、音が途切れてて。

【事務局】あ、すみません。はい、アドバイザー制度を中心に、以前よりご提言もいただいていたと思います。その点踏まえてのご意見の方いただければと思います。

【庄司委員】はい、そうですね。アドバイザー制度は私がご提案した時には国がやっている総務省の地域情報化アドバイザー制度、オープンデータ伝道師などの制度を念頭に置きながら話をしました。

それは、国の場合で言えば総務省など、あるいは東京都の場合で言えば都庁などが方針を示したり、文章ガイドラインとか作ったりしても、現場に実装するところでは具体的な課題がたくさん出てくると思いますし、様々な分野に応用問題を考えていかなければいけないわけですから、そういう時には様々な知見を持った人が現場に近いところで一緒に考えたりアドバイスしたりすることが大事なんだろうと考えてご提案したものでした。

そのためアドバイザーという方々は、多様なバックグラウンドを持っている方がいいと思います。アドバイザーボードにおいてもそうですが、専門性もそうですし、立場・セクターもそうでしょうし、性別もそうでしょうし、いろんな立場の方が入っていく。多様な顔触れでアドバイザー、アドバイザーボードを形成するのがいいのだと思います。有名な忙しい人を捕まえるよりは、本当にその現場に入っていける方がいいのではないかと。そういう人をうまく見つけるのはなかなか難しいところもありますが、名誉などではなくて、本当にその実働に入っていける方になっていただいで、ボードにも意見を反映していただくのがいいんじゃないかなと思います。

【事務局】ありがとうございます。「多様なバックボーン、専門性を持って、現場に入っていける人、実働できる人たちを中心に、頼正のある体制作りが出来ればよい」というご意見や、「具体的な実装に向かっていくところにフォーカスしながら進めていかなければならない」というのがポイントだったかと思います。

佐藤委員にご意見を伺います。日頃支援していらっしゃる企業の日線も踏まえて、アドバイザー制度への期待等ございましたら、ご意見いただければと思います。

【佐藤委員】はい。庄司先生からもお話しがあったとおり、私も現場で動ける人材というのを巻き込んでいくのがすごく大事だなと思っています。そういう意味では、スタートアップの世界で手を動かせるエンジニアであるとか、さまざまなプロフェッショナルな人たちを入れていく、というのが大事だと思っています。

今時点で特段「こういう風にしたらいんじゃないか」というのはないんですが、庄司先生にお話いただいた内容にほとんど同意だなんていうふうに感じています。

【事務局】ありがとうございます。こういった困りごとがあるんじゃないか、アドバイザー制度に意見・アドバイスができるような人たちがいるといいんじゃないかとか、そんな視点でのご意見もありますでしょうか。

【佐藤委員】なかなか難しいと思うんですけど、若い方たちでこういうのに興味がある人をどんどん積極的に入れていって、ポジションを与えるっていうのも、すごく大事な役目なのかなと思っています。それとともに、やっぱり東京都からのアドバイザリーボードに入るので、きちんとした責任も明確にしないといけないので、その辺のリスクはちょっとあるのかなというふうに思ったりします。とにかく小さく始めることが大事なので、何か問題が起きるといことよりも、まずは実行を移せる、スピーディーにやれるような体制・アドバイザリーボードが構築できるといいんじゃないかなと思っています。

【事務局】ありがとうございます。「小さく始めてスピードを持って取り組むことが重要であって、若い人たちもそのボードメンバーとして入れればいいんじゃないか」という貴重なご意見だと思います。

続きまして南雲委員にご意見を伺います。日頃、多様なバックボーンを持たれた方々を巻き込みながら活動されていると思いますけれども、例えば参加者の支援にどんな機能、どんな人が重要かといった視点から、ご知見をお願いできればと思います。

【南雲委員】たぶん2つの視点が必要だろうなと思っています。1つはアドバイスをする内容がすでにある、何らかのベストプラクティスの横展開など。たまたまそのチームに人数が足りないので、それを補完するというような、どちらかというと底上げ系の話。これはス



ピード感を持ってやっていくために必要な人材活用の一つ的手段だと思うんですね。

ただ、いま東京都が向かおうとしていることを中長期で考えると、答えを持ってきてくれる人を、口を開けて現場が待ってるっていう文化を作ってしまうと、これはよろしくないと思うんですね。

思考の枠の外から思わぬものを飛ばせる人。こういう人が一定割合ないと、コンプライアンス型のアドバイスになってしまうんじゃないかという気がしている。イノベーター、イノベーションを起こせるような、異能なんて言葉もあつたりしますが、そういう人たちもあえてアドバイザーとして活躍していただくような環境を作っていただくのも、実はとっても大切なんだと思います。

特に日本人に文化の盲点はあるって、日本人ならこう考えるということ、支援の間に予定調和してしまうような、同調圧力があつたりする時もありますけれども、それを乗り越える力を東京都が備えることが、視点としてとても大切だと思います。

なので、そのアドバイスをするときの視点を二つに分けるといふようなこともお考えになった方が、中長期的にはいいのではないかなと思います。

**【事務局】**ありがとうございます。「人材活用の観点で横展開をしていくことも非常に大事なポイント」というご意見をいただけたかと思ひます。

また、口だけ開けて「場所を用意したんで皆さんどうぞ」、ではなくて、もう少しイノベーターの人たち、思考の枠の外から何かしら投げ込んでくれるような若い人たちの登用を行って、予定調和にならないことが大事といった意見もありました。そういったところも鑑みた体制・仕組みづくりが非常に大事で、単なる同調圧力だけにならないようにといったアドバイスをいただけたと思ひます。

**【南雲委員】**「若い人」という言葉の使いかたは気をつけたほうがいいと思ひます。逆差別っていうこともあると思ひます。日本の今の人口動態を考えると、年齢に関係なくイノベーションを起こせる人とかノウハウがある人を登用しないといけないと思ひますし、日本人である必要も全くないと思ひます。もう少し幅広に考えていただいた方が面白いかなと思ひました。

**【事務局】**追加のご意見ありがとうございます。逆差別にならないようにというところですね。日本人以外でも登用して幅広に考えることの重要性についてご意見いただきました。

続きまして日置委員にご意見を伺ひます。アドバイザー制度も、やり方や立場によっては、例えば利益相反や責任の問題とかあるかなと思ひております。現実的には実現するうえで様々な問題があるかと思うんですが、その辺でご意見を頂戴できればと思ひます。

**【日置委員】**私の分野ではどうしても弁護士法がありますので、非弁行為や非弁提携などが

大きな課題になってきます。例えばインキュベーション施設との関係で、こういった形でお手伝いができるのか、役割分担できるのかっていうのを常々考えさせられるんですね。

先ほどのアンケート結果では、アドバイザー制度に法務自体への要望はそんなに多くなかったと思うんですけど、何か法務面っていう話があるんだったら、法曹資格を持ってる方がしっかりと法務について発言するとか、そういったところは考えなきゃいけないだろうというのはあります。

そのときに、どうしても費用が発生するのかもしれない。どこと紐づくのかによって、誰に対してアドバイスできるのかも変わってきますので、そのあたりは座組を考えなければいけないと思います。

またアドバイスをする方によっては利益相反があるかもしれないし、こういった基準で選出するのかというのは、気にしなきゃいけないよねと。

他方、すごく柔軟な形で、ある程度柔軟かい組織として出発するのであれば、そこまで気にしないでいいこともあるのかもしれない。相談内容を踏まえて位置づけを考えていけばいいのかなと思います。

**【事務局】**ありがとうございます。法務アドバイザー面では、誰に対してというのもそうですし、その座組の仕方、柔軟かい取組の場合はどうかなど、ご意見いただきました。先ほどのアンケートの中では、確かに法務面というところが少なかったのかもしれないですけども、実際にやっていくと、様々な問題に対して、相談できるようなアドバイザーがいるとよろしいというご指摘だったかなと思います。

もう一周ぐらい行けると思いますので、少しまた一つ違う観点でご意見をいただければと思います。南雲委員からよろしくお願いします。

1回目の討議の時もそうでしたし、今のところでも、キーワードとして「海外」が出てきたかなと思っております。東京都としてフロントランナーとしてやっていかないと、というところで、なかなか参考に出来るものはないのかもしれませんが、海外の取組事例で、例えばデータ整備とか、データ連携基盤を作るといったことに対して、ご指摘いただければと思います。もしくはそれ以外でも、海外の目線などございましたら、ご意見を頂戴できればなと思います。

**【南雲委員】**海外に関して言うと、いわゆる海外からできあがったものを輸入するというスタンスは、そろそろ卒業したほうがいいと思っています。もちろん海外に見に行くといいものがたくさんあるし、海外の拠点からいいものが入ってくると「日本に」ってことをやっておられると思うので、それは今までのやり方ということでもいいと思っていますが、「共創(ともにつくる)」ことを、海外でやるという気概が必要だと思います。ロンドンのグレーターロンドンオーソリティーとか、ニューヨークシティとか、コペンハーゲンでもヘルシンキでも中近東でもどこでもいいと思います。シンガポールでもいいと思うし、韓国の世宗でもいい

だと思いますけど、恒常的な関係を作ってお互いに対話をする。そこから学びあって、解決策とかイノベーションが生まれていくような関係を作るというのが、基本線としては大切だと思うんですね。

もちろんそれをやる過程で、クイックに東京都が求めている答えが出てきて、「すぐやりましょう」となってくれば、それはそれで low-hanging fruit でいいと思うんですけども、まちづくり・国づくりは長旅なので、やはりそういう外交にも近い、お互いがウィンウィンになるような関係をどうつくっていくのかが必要だと思います。そうすると逆に「日本ならでは」が引き立って見えてきたりするんですよ。「あ、日本はここが進んでるんだ、ここはプライドを持って前に進めていこう」というようなエネルギー源も見つけることができる。そういう心構えが必要かなっていうのが1点目ですね。

必要があれば、いくらでも私もいろんなところと繋がって、いろんな思いを持ってやっているんで、お繋ぎすることはご支援をしたいと思っています。

もう一つ、ケーススタディ事業以下のところに関して言うと、時間軸と、それから何をやるのかというディスクリプションはあるんですけども、成功の基準（サクセスクライテリア）が、数字になりがちだと思いますが、あってもいいと思います。定性的なもので見てもいいと思いますが、これを達成することが必須である、ということが必要だと思います。あまり必須であるということに引きずられて、無理をして変なことになることを求めるものではないので、仮にサクセスクライテリアがあることによって、達成できなくても、「なぜ難しかったのか？」という学習が生まれると思うんですね。基準を持つことがとても大切で、それが進化・進歩につながっていく肝じゃないかなと思います。

**【事務局】**ありがとうございます。2点お伺いできたかと思います。海外と共創していくのはぜひ東京都として進めるというアドバイスをいただきました。そこから学びが生まれ、お互い Win-Win の関係もできるでしょうし、「東京ならでは」が見つけれらんじゃないか、といったご意見。

もう1点が、成功の基準を設けるというところ。もちろんそこに縛られてはいけない、学びながら進んでいくための分かりやすい基準を作る意味でも大事なことだというご意見をいただきました。ケーススタディ事業での成功の基準という話も伺えました。

（音声途切れ補足：続きまして、庄司先生の方からご意見を）伺えればと思います。さまざまなケーススタディ事業において、成功の基準ですとか、はたまたデータ整備やデータ連携する上でポイントになる点について、ご意見がございましたら頂戴できればと思います。よろしいでしょうか。

**【庄司委員】** すいません。また音が途切れていて。

**【事務局】** あ、すみません。

【庄司委員】はい。ケーススタディ事業は、たくさんやったほうがいい、どんどんやったほうがいいと思うんです。

狙って成功を作り出すという観点も大事ではあるんですが、いろんな試行錯誤をしていくことが大事なので、いろんな方にご提案いただければと思います。結局いくつか選ぶことにはなりますが、ぜひご提案してきた方々には引き続き TDPF に何らか関わっていただく。そういう道もできたらいいなと思っています。

ケーススタディ事業の成功っていうのは、そこから何を学べるかがまず大事ですし、その熱量というか、いろんな人たちが多様な提案を持ってきてくれて、一緒にやろうと言ってくれるということが貴重な財産だと思うので、そこを大事にしてもらえればと思っています。間違っても、数少ないものを、なんとか成功したということにこじつけるみたいな、そういうタイプの事業にしないっていうことは大事だと思います。

そして個人的には、データ整備事業にもっと光が当たって欲しいと思っています。地味なんですけど、よく見るといいことをやってるんですね。データを整理するとき、実はそのまま使えるデータっていうのなかなかなくて、使いやすいデータに加工していく必要があるわけです。じゃあどうやったらいいのか。いろんな知見を積み重ねてきていて、今年は更にそれを拡大して行くぞということになっているわけで、ここにいろんな方が参加して下さると、まさに TDPF の目指している使いやすいデータが整備されていくということに直結していると思うんですよね。

分かり易い何かが目に見えるソリューションっていうよりは、データを作る話なので、ちょっと地味ではと思いますけれども、ここで良いデータを作って、その小さな成功ですよね。この手間が省けましたとか、こんなのが使えるようになりましたというのを、いくつも作っていただければなと思っています。

【事務局】ありがとうございます。先ほど南雲委員からご意見いただきましたサクセスクライテリアのお話や、庄司委員からいただいた、たくさん取り組むべきというお話から考えますと、成功というのは「何を学べたか」と置き換えてもよろしいのかなというふうに思います。そのためには熱量を持ってやっていく。あわせてデータ整備をする上で、「使いやすいデータとは何か」を意識して、「何かの手間が省けた」や「何かそれを使うことで新しい取組ができた」といった小さな成功を積み重ねながら、よいデータを作っていくところが非常に大事なポイントであるといった意見いただきました。

【庄司委員】はい。昨年度令和3年度の事業では、かなりそこを突っ込んで、画像 PDF をどう扱うとか、エクセルデータをどう使いやすいかとか、本当に実用的で痒いところに手のとどくようなことをやられているので、これをぜひ広げてほしいなと。いろんな使いやすいデータの観点は、どんどん具体的なものを整えて、経験を積んでほしいなと思

います。

【事務局】追加のコメントもいただきまして、大変ありがとうございます。

具体的な、手触り感のある実用的なところを令和3年でも取り組んだということで、さらに拡大していければというご意見いただきました。ぜひ進めていきたいと思っております。

続きまして佐藤委員に伺います。データ活用のために、何を実現するかが大事なポイントになるかと思えます。様々な企業様を支援されている中で、社会課題の解決とか、昨今はどんなテーマがよく上がってて、そのために取り組まれていることなど交えてアドバイスがいただければなと思えます。

【佐藤委員】はい。最近のベンチャーだと、気候変動系のベンチャーが出てきています。クライメイトテックですね。この辺はすごく注目されているところではありますが、やっぱり課題も大きいですし時間もかかるので、スタートアップ業界だとなかなかお金が集まりにくいという課題もあつたりします。

ただ、この部分は必要不可欠ですので、我々スタートアップ業界でもどういうふうに支援をしていくことができるのかは、行政含めていろいろと巻き込んで、変えていかないといけないね、みたいな話をしています。

先ほどのご意見にもありましたけれども、データ整備は非常に地味な部分でもあるんですけど、本当に大切なところですよ。都知事杯のオープンデータハッカソンであるとか、新しいチャレンジをした人達をきちんと表彰する制度であつたり、小さくてもそれが行政にどう直結しているのか可視化出来たりとかですね。こんな成果があるんだよっていうのが見える化されていくと、もっとやりたいっていうふうになってくると思うので、こういった表彰制度とその成果を可視化して、もっとオープンにする。

プロジェクト自体も、ですね。今 Slack を使って活発に意見交換をされていらっしゃると思うんですけど、更に Slack をいろんな人たちにも知っていただいて、意見をもらえるように告知を強化したり。そうするとグローバルにも様々な知見も入ってくるのかなと思っております。

先ほど若者というお話のときに、逆差別になるかもしれないというご指摘いただきましたが、そのとおりだと思うんです。データ自体のグローバル化みたいなところで、海外の方たちにも使いやすいような発信であるとか、そういったところも必要になってくるのかなと感じています。

【事務局】ありがとうございます。

ベンチャー業界でも、気候変動など、地球環境系や社会課題のテーマが多い中で、解決のために業界を超えて、行政も巻き込んで取り組むことが大事とのご意見をいただきました。

ハッカソンでの表彰といった取組については、我々も非常に大事であると考えております。データ整備でも、表彰することと行政のつながりへの成果の可視化、その2つを組み込むことが大事というご貴重なご意見をいただきました。

そのためにも Slack などを使ってもっと盛り上げないといけませんね。この辺の告知の強化を含めて取り組んでいけたらと思っております。またグローバルに繋がっていくところも、大事なのかなと思いました。

続きまして日置先生からコメントいただければと思います。どちらかというデータ整備とかデータ連携、あるいはポリシー策定の部分でもよろしいんですけども、何かアドバイス、コメント等いただけますでしょうか。

【日置委員】はい。ポリシー案ですが、これまでの取組では、想定されるものを洗い出して規定を作る。他方、柔軟性を持たせなきゃいけないということで、個別契約の余地を残してきました。

そうすると結局、オーダーメイドの対応を前提とした取組みになるわけですが、都市インフラというものを考えた時に、果たしてそれで維持できるのかは、皆さんも疑義を持たれるんじゃないかと思えます。

最初のうちは、トライアンドエラーを繰り返しながら収斂させていく。組織としてもルールとしても、データの仕様なども取り決めていくと思いますが、どこかの段階で、ポリシー、規定類、ルール、組織の審査体制などをブラッシュアップして、定型化できるところは定型化していくっていう方向にシフトしないと、規模感が出ないと思えます。

今年度の取組としては、まだもう少しオーダーメイドで、各ケーススタディ事業などの取組を踏まえて落とし込んでいく、という作業になろうかと思えますが、視点をちょっとずつ変えていくっていうことも重要なかなと思っております。

【事務局】ありがとうございます。項目を洗い出し、構成要素検討しながら洗い出していく。かつ少しオーダーメイドのポイントを残しつつ、スピードを担保するための定型化も進めていく。そのバランスが大事だというご意見でした。また、そのための視点を改めて取り組んでいくっていうところが、非常に大事なポイントになるといったご意見をいただきました。

コメントの方を拾わせていただきます。本当に皆さん、たくさんコメントありがとうございます。

グローバルなデータが入ってくるので、当然グローバルに出て行くデータもある、といったご意見もありますね。個人情報を含めた取り扱い制度も大事になる、といったご意見ありがとうございます。データ整備マニュアル成果報告会、資料公開していますので、ぜひ確認いただければと思います。

データ利用に係る権利のコンセプトをデジタル庁の包括的データ戦略の中で示している

といった情報もいただきました。参考にさせていただければと思います。

そうしましたら、宮坂副知事から、第2回目の意見交換を通じてご意見いただければと思います。

【宮坂副知事】はい、どうも活発にありがとうございました。特にケーススタディ事業は、昨年度から色々やっていますが、毎年着実にステップアップしてる感ってやっぱり重要ななと思っています。

行政の中でも、先ほどから「今までやったことがないタイプの事業だよな」という話がありましたけど、やはりこの事業の小さな成果を見せていくことが、来年、再来年、もっと拡大していこう、データ大事だよなっていう後押しを作っていく上で、組織を動かす上で、すごく大事なななと思っています。

なので、非常に大きな野心的なビジョンも掲げながらも、小さな分かりやすい成果を積み重ねるべきだと思います。データ整備事業とかも、本当に昨年、地味にいいことをやったんですけど、そこで整備した事業で都民の人が具体的にわかりやすい、「あれやったからこういうサービスができるようになって便利ですね」とか、そういったものが生まれることが、着実に毎年、毎年この事業が、大きく組織の中で育っていく意味で大事だと思いますので、ぜひそういう視点で進めればと思います。

先ほど、南雲先生でしたか、あの成功の条件定義をした方がいいよというのはありましたけど、各事業について、それぞれ成功の定義を数字でもっていただいて、その成功の定義に近づいているかどうかというところ。また客観的な視点でこうしないといけないんじゃないのとか、フィードバックをもらえるといいのかなと思いました。

本当にありがとうございました。

【事務局】ありがとうございます。ステップアップ感、小さな成功積み上げ、わかりやすさを念頭に置きながらケーススタディ事業の方も進めていきたいと思っています。また、ビッグビジョンとか、目的目標を見失わないようにしつつ、具体的なことに取り組むといった、両輪見ながらの取組が大事だと思います。

2回目のご意見の中で出てきました、地味な作業を積み上げて、上手に広げていきながら、都民にとって嬉しいことに繋がるためにも、成功の定義を具体的な取組と合わせられればというご意見、ここは検討に含めていければなというふうに思っております。

## 9. 東京都からのお知らせ

【事務局】閉会の前に、参加いただいた皆様にくいつかお知らせがございます。本日は行われました、第5回推進会議に関するアンケートにご協力をお願いいたします。画面に表示されるQRコードを読み取るとスマホから回答できます。こちらのQRコードは閉会後も表示いたしますので、みなさまのご意見をぜひお寄せください。

それでは東京都からのお知らせを、若井部長からお願いできればと思います。

【若井部長】はい。東京都ではオープンデータを活用した民間のサービス創出などを通じ、都政のクオリティオブサービスの向上を目指すオープンデータ徹底活用プロジェクトを実施しております。

そして、昨年度も実施をしました、都知事杯オープンデータハッカソン、先ほど委員の先生方からも言及ありましたが、今年度もこれを開催いたします。

オープンデータを活用して行政課題の解決に向けたデジタルサービスの開発を競い合うイベントとなりまして、昨年度も都民生活にとって有意義なサービスの種が開発をされております。すでに募集を開始しておりまして、8月5日まで参加者を募集しておりますので、ぜひ奮ってご参加をいただければと思います。

ハッカソンの魅力を伝えるために、参加者の募集イベントを実施しております。昨日1回目を行いました。行政課題の理解やサービスを提供するためのアプリケーションの開発の手法のレクチャーなど、多くの方々にハッカソンにチャレンジをしていただけるように情報を提供してまいります。

次回は7月6日を予定しております。わたくしも登壇する予定ですが、3回目が8月21日を予定しております。ぜひご参加をいただければと思います。

続いてTDPF関連事業の今後の予定についてです。まず来週6月28日火曜日の午後7時から9時ですけれども、第5回デジタルツインの検討会を実施いたします。ロードマップ第2版や今後の事業展開について意見の交換等を予定しております。現在も参加申込み中ですので、ご興味のある方はぜひ参加を検討いただければと思います。

続いてデータ整備事業です。本事業への参加のご意向やデータ整備、データ整備における課題、それからニーズなどの調査のために、民間事業者向けのアンケート、それから協力事業者の公募を現在実施しております。いずれも7月22日の金曜日の正午までに回答、公募お待ちしておりますので、こちらのほうもぜひ奮ってご検討のほどお願いを申し上げます。

東京都は中長期的にエネルギーの安定の確保に繋げる観点から、取組を強化加速しております。ポイントは電力を「減らす」「作る」「ためる」その頭文字をとりまして、キーワード「HTT」と定めております。この3つのポイントから家庭向けに東京クールホームを、事業者向けに東京クールビズとしまして、さまざまなメニューを用意し、展開をしていきます。皆様、ぜひご協力をいただけますようお願いいたします。



## 10. 閉会の挨拶

【事務局】本日の最後に、デジタルサービス局久我局長より閉会のご挨拶をいただきたいと思ひます。久我局長よろしくお願ひいたします。

【久我局長】はい。本日はお忙しい中、第5回推進会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。5人の委員の皆様には、昨年度に引き続きご参加をいただきました。わたくしからも改めて感謝申し上げます。

本日様々にご議論いただきました。大きく東京都はフロントランナーだからがんばれと、励ましと強い期待をいただいたのかなと感じた次第でございます。

フロントランナーだから面白い、ワクワクしながらやろう、だけど前例がないから難しいけど、関係者と大いに議論をして、枠を超えて周囲を巻き込んで取り組んでいこうと、まさにそのとおりでありまして、事務局はもちろん、デジタルサービス局全体がこのようなスタンスで、熱い思いを持って熱量マックスにして、取り組んでいかなければならないと改めて強く感じた次第でございます。

今年度は本日ご紹介いたしました、3つの新規WGの設置や、アドバイザー制度の試行、創出したユースケースの仮想データ連携基盤への実装など、より具体的な事業化に向けまして、さまざまに取り組んでまいります。

本年度も委員や参加者の皆様と議論を重ねながら、この東京データプラットフォームの取組を進めてまいりたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。本日はお忙しいところありがとうございました。

【事務局】久我局長ありがとうございました。

みなさま、これまで2時間ほどお付き合いいただきありがとうございます。以上が第5回推進会議の次第内容でございます。

繰り返しのお願いとなりますが、本アンケートのご協力をお願いできればと思ひます。こちらのQRコードからお答えいただけますので、本日発信し切れなかった意見、感想ですとか、言いたいところも含めて、ぜひお送りいただければと思ひております。

また最後の東京都からのお知らせでもありましたが、Slackグループに参加いただける方は、アンケート内にアカウント作成に必要なメールアドレスを、ぜひ入れていただければと思ひます。皆様の参加をお待ちしております。

また本日、入室トラブルや音声の乱れが一部あったかと思ひます。大変失礼いたしました。

そうしましたら、何度もお願ひして恐縮ですけれども、アンケートと、ご興味があれば、Slackグループへの参加、東京都からのお知らせにありました、数々の取組に対する積極的な参加ですね。興味を持っていただければなと思ひております。

少し時間は早いですけれども、本日は以上とさせていただきます。皆様、ご参

加ありがとうございました。

以上